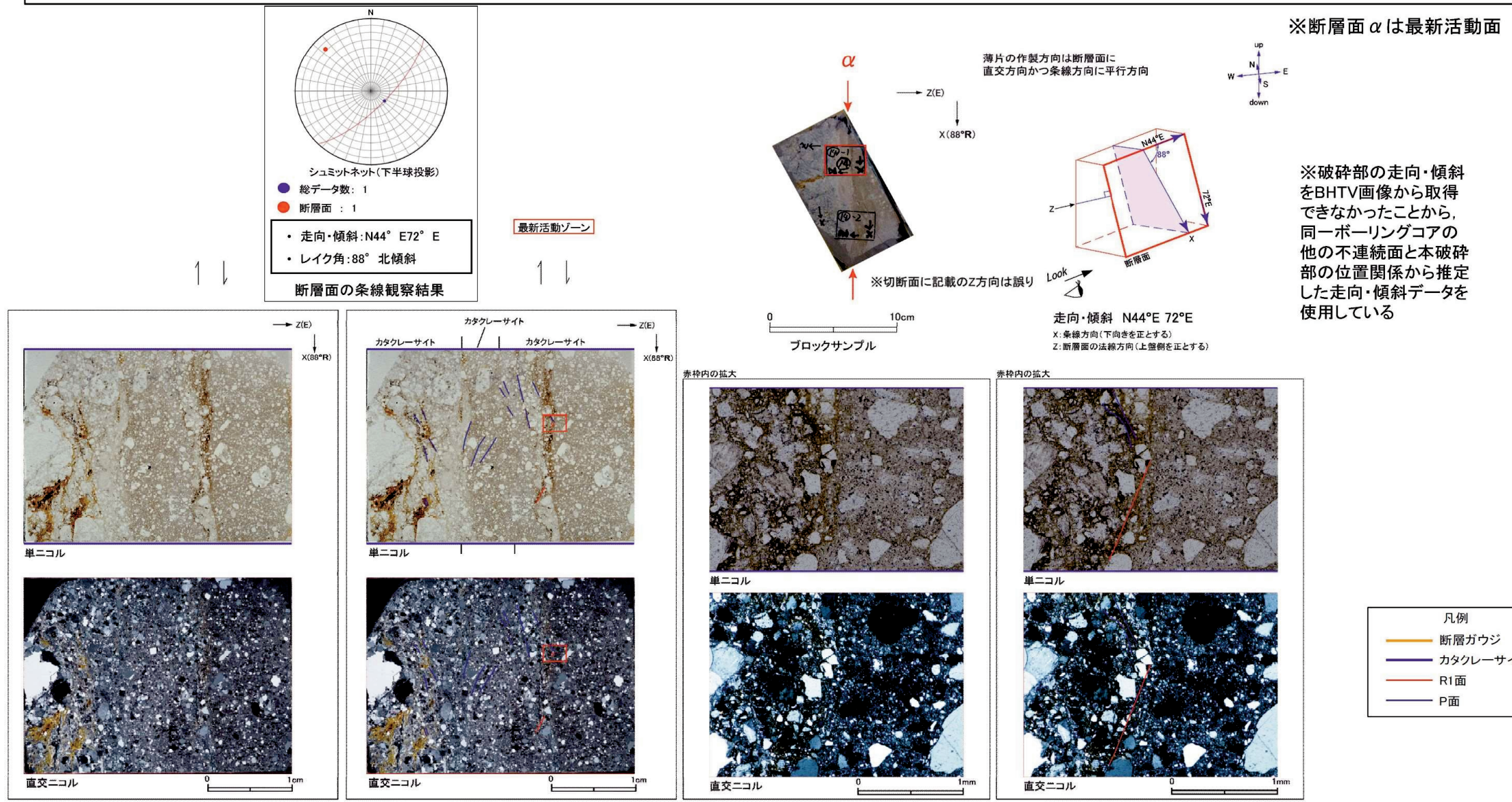


H27-B-1 深度75.57~76.00m 最新活動面の走向・傾斜 (No.48)、条線方向 (No.49) の変更に伴い、変位センス (No.50) を変更

- 薄片試料の観察自体は適切に実施されていたが、走向・傾斜 (N34°E87°NW →N44°E72°E) が変更になることにより、傾斜方向が西傾斜から東傾斜に変更となり、上盤と下盤がの関係が従前の評価と逆となるため、変位センスは「正断層成分が卓越する。」に変更となる。

- ・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、正断層成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
 - (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - (カタクレーサイト) 組織は漸移的に変化する。
 - (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
 - (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
 - (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
 - (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。
 - (カタクレーサイト) 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



H27-B-1 深度85.38~85.41m 全景写真の記載 (No.52) を修正

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料 1

敦賀発電所 2号炉 敷地の地形, 地質・地質構造について

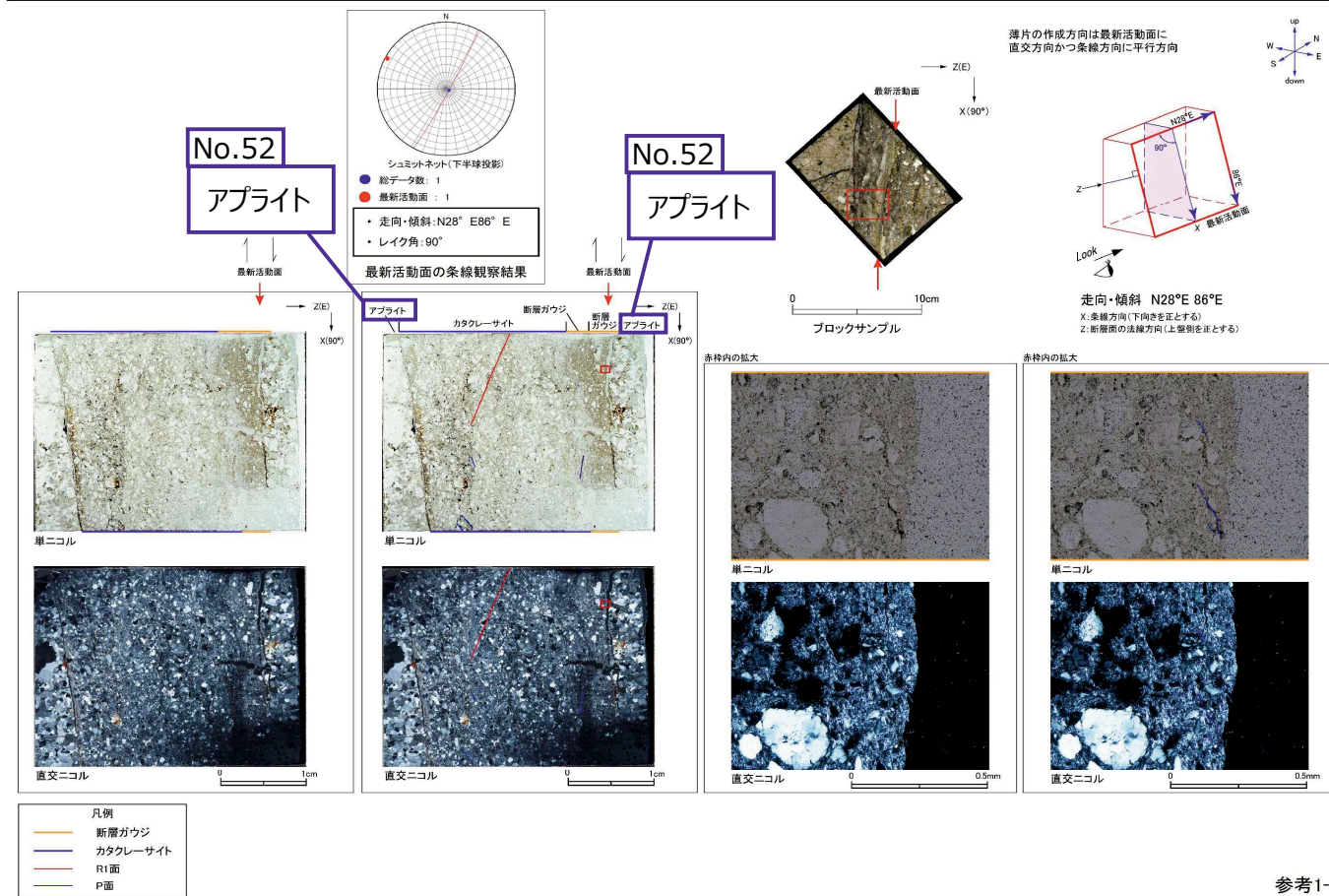
参考資料 1 薄片観察結果

参考1-183頁

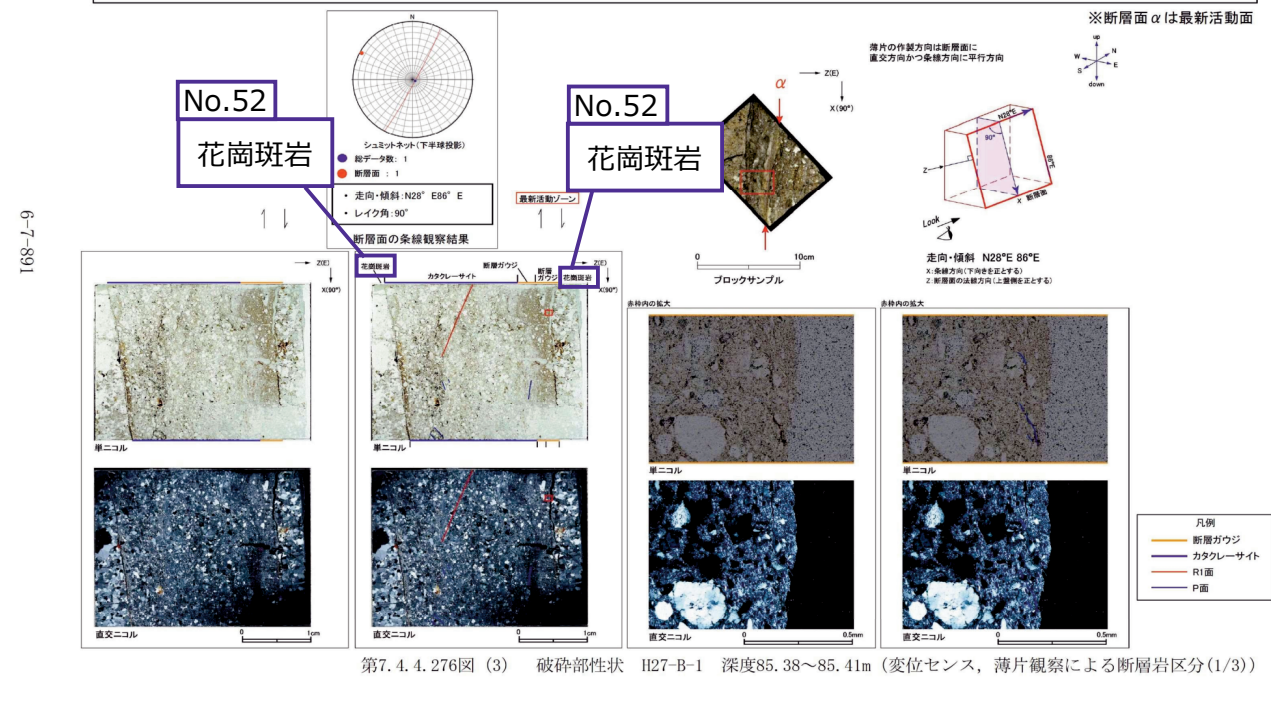
第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

f-b-1-16 破碎帯 薄片試料観察 (H27-B-1 深度85.41m)

H27-B-1のボーリングコア(深度85.41m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、正断層成分が卓越する。



・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、正断層成分が卓越する。
・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
➢ (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
➢ (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
➢ 岩片は少ない。
➢ (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
➢ (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。



1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響

・最新活動面の深度を113.60mに修正 (No.53)

・断層ガウジの幅を0.1cmに変更。

なお、断層岩区分の総合評価においてカタクレーサイトと評価したため、性状一覧表では記載を「－」としている (No.54)

【理由】最新の観察結果/総合評価に伴う変更

【断層連続性評価への影響】なし

2. 変更箇所

- a 最新活動面の深度を「113.60m」に修正 (ただし、フォーム見直しにより数値の記載なし) (No.53)
- b 断層ガウジの幅を「－」に変更 (No.54)
- c 断層岩区分をカタクレーサイトに変更 (No.54)

H27-B-1 深度113.51~113.60m 断層ガウジの幅 (No.54) を変更

従前

見直し後

第833回審査会合
机上配布資料2
敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について
参考資料2 性状一覧表
参考2-189頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)

15.非モデル化破砕帯
性状一覧表(17/19)

断面番号	深度 [m]	層厚 [m]	方位	傾斜	破砕帯 幅 [cm]	破砕帯 長さ [cm]	破砕帯 形状	破砕帯 色	破砕帯 成分	破砕帯 状態	破砕帯 評価	断面長さ [cm]	写真
①	88.17	48.22	N40E	40E	3.0	1.3	無	—	—	—	—	49	
②	92.07	52.81	N35E	35E	3.0	7.2	—	—	—	—	—	52	
③	93.17	53.97	N27E	27E	4.8	12.7	無	—	—	—	—	53	
④	99.70	59.72	N25E	25E	2.4	2.1	無	—	—	—	—	59	
⑤	74.58	74.58	N15E	15E	10.7	11.7	無	—	—	—	—	74	
⑥	78.57	78.57	N21E	21E	—	—	—	—	—	—	—	78	
⑦	96.28	96.28	N15E	15E	—	—	—	—	—	—	—	79	
⑧	113.51	113.60	N21E	21E	8.3	12.8	無	—	—	—	—	113	

No.54
0.2

b

凡例
最新活動面 ← → 破砕帯 断層ガウジ 粘土の存在が認められる箇所

【破砕帯】
粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部、
固結した粘土状破砕部、固結した砂状破砕部、固結した角礫状破砕部
の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。
【平滑さ】
平：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの
参考2-189

断面番号	深度 [m]	層厚 [m]	方位	傾斜	破砕帯 幅 [cm]	破砕帯 長さ [cm]	破砕帯 形状	破砕帯 色	破砕帯 成分	破砕帯 状態	破砕帯 評価	断面長さ [cm]	写真
H27-B-1 (傾斜45°)	75.57	76.00	N44E	72E	18.2	—	—	—	—	—	—	75	
H27-B-1 (傾斜45°)	78.72	78.87	N17E	71E	13.1	—	—	—	—	—	—	78	
H27-B-1 (傾斜45°)	85.58	85.41	N20E	20E	2.0	—	—	—	—	—	—	85	
H27-B-1 (傾斜45°)	113.51	113.60	N21E	21E	8.3	—	—	—	—	—	—	113	
H27-B-1 (傾斜45°)	118.84	119.12	N29E	79E	15.1	1.5	有	—	—	—	—	118	
H27-B-1 (傾斜45°)	139.82	139.88	N27E	27E	4.4	—	—	—	—	—	—	139	

No.54*
—
b

※1 断層岩区分の総合評価に基づき記載し、肉眼「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「—」を記載
※2 斜めボーリングの場合は、計測値を補正した値を記載
※3 幸遇しない成分については「—」を記載(両成分「—」は薄片観察を行っていない箇所)
(上記以外):データを取得していない箇所

凡例
最新活動面 ← → 破砕帯
カラーバーが付いていない区間はカタクレーサイトを示す
断層ガウジ 断層角礫

第7.4.4.413図(3) 破砕部性状一覧 (H27-B-1)
6-7-1591

* 断層岩区分の総合評価においてカタクレーサイトと評価したため、性状一覧表では記載を「—」としている

